

いては、新教材を授ける場合又は時々説明する事を忘れてはならぬ。尙常に理論を説いて實際をなさしめ、實際をなさしめて理論上から考へしむる事をも忘れてはならぬ。

2、本時の如く理論を授くるを目的としてなす場合は、雨雪風等の場合、酷暑酷寒等の場合は適當してゐる。

3、理論の知識は必要ではあるが、あまり深きに渡り、或は之れのみ重んずる如き事なき様注意を要する。實行の學問である。

□教授案例三

兒童 男五十名。

日時 十一月上旬、第五校時。

天候 晴、稍々冷氣を覺ゆ。

前後時の關係 (1)前時——讀方

(2)後時——退校

教授の主目的 規律的自覺的に訓練し、併せて新教材を授くるにある教順

1、教練

簡單なる諸動作——目的は規律的精神と共動的精神の喚起にある故、複雑なる諸動作は課する必要はない。

2、上肢運動

臂上下伸——隊形距離三步兩手間隔。

3、上下運動

臂側舉足側出——隊形同前。

臂前舉足前出——間。

4、頭の運動

5、 手胸頭左右轉、左右屈——隊形同前。各自に各々二回。

5、 胸の運動

水平棒依托臂上伸閉足上體後屈舉踵——水平棒の高さを各自に決定せしめ、水平棒を脊にして集らしむ。臂上伸閉足姿勢を取らしめ、水平棒の位置及び上肢體の姿勢踵の位置を個別的に正し、一度元の直立姿勢になして後再び臂上伸閉足姿勢を取らしめ、一齊に體後屈を二回なさしむ。

運動の初めか或は運動後に、教師又は兒童の中模範となるべき者として、示範し簡單なる理論的説明を加へ、更に練習せしむることも可なり。

運動後には調節運動をなさしむ。

6、 懸垂運動

前方斜懸垂屈臂——本學年教授案例一に於て示せるものに、屈臂を加へしのみ。自律的正確になさしむる事に注意すべし。

7、 遊戯

「トンネルボール送り」——三回。

8、 平均運動

平均臺上徐歩行進——各自になさしむ。

9、 脊の運動

手頭閉足體前倒——平均運動の終りし者は、各自三回づつなさしめ、教師は個人指導をなす。

10、 腹の運動

腰掛足支持手胸體後倒——各自をして腰掛足支持姿勢をして待たし、腰掛上體の姿勢、足の姿勢及び掛方等に就いて注意し、手胸姿

勢を取らしめ一齊に上體後倒を三回なさしむ特に注意すべきは

イ、體の倒起は股關節のみによりてなさしむ。

ロ、呼吸を自由にすべき事。

ハ、頭、胸、腰の姿勢を正しく保たしむ。

ニ、運動は常に緩かになさしむ。

尙後倒の度は次第に多くし、脚と體とが一直線となる如きまで進
ましむ。速度は初歩には速く熟するに随つて緩かならしむ。

11、 軀側の運動

手胸開脚屈膝體側倒——隊形自由開列、緩かに各自三回宛なさし
む。屈臂足前出體左右轉——隊形同前、各自に三回なさしむ。教
師は常に個人指導をなす。

12、 教練

行進間の諸動作——規律正しく行ふ。

13、 跳躍運動

跳上跳下——各自三回、示範二回、各自二回。準備運動として、各自
に手胸屈膝舉踵臂側振其場跳躍を各二回なさしめたる後に本運
動をなさしむ。

14、

「リレーレース」——五十名を五組に分ちてなす。始めに渡し方の
練習をなして後なす。

15、 平均運動

足尖行進——五列縦隊にてなす。
手胸舉踵屈膝——緩かになさしむ。各自三回。

16、 呼吸運動

臂側上舉側下——各自五回。終つて靜かに整頓して解散。

備考

- 1、最も運動慾の旺盛なる五年の男子であり、殊に秋の季節であるから、活潑元氣に指導せねばならぬ。
- 2、リレーレースの渡方練習には、全兒童を數列の横隊として適當なる距離と間隔を置き、一齊に練習せしめ得る。距離は三十歩位、間隔は三步位でよい。

□教授案例四

兒童 女五十名。

日時 二月上旬、第五校時。

天候 晴、寒し。

前後時の關係 (1)前時——綴方

(2)後時——退校

教授の主目的 既習教材の修練に依つて、身體的に精神的に効果を及ぼさしめ、殊に暖を得ることを目的とする。

教順

1、遊戯

手繼ぎ——前時綴方に依つて、精神的疲勞と、血液の循環の不良とを恢復せしめ、團體的運動的氣分を起さしめる。

場所取——更に氣分を喚起せしめ、注意を集注することに依りて、寒氣を忘れしむ。

手繼ぎ及び場所取の方法は配當學年の教授案例にあり。

2、頭の運動

手胸頭の前後屈——隊形教師を中心として自由開列、一齊に三回。

- 3、 上肢の運動
臂左右上下伸——隊形同前、特に呼唱を用ふ。
- 4、 下肢の運動
手腰屈膝舉股——前同。
- 5、 胸の運動
水平棒依托臂上伸閉足上體後屈——各自になさしむ。三回。
- 6、 遊戯
攀登競争——前列及び後列に依つて競争、或は個人競争。
- 7、 平均運動
平均臺上徐歩行進——各自になさしむ。一回。
- 8、 脊の運動
手胸片脚屈膝片脚後舉體前倒——各自になさしむ。左右脚にて各

二回

- 9、 腹の運動
腰掛足支持手胸體後倒——各自に三回宛なさしむ。
- 10、 軀側の運動
腰掛手胸體左右轉——腹の運動に用ひし腰掛を直ちに用ひて、各自左右各二回づつなさしむ。
- 11、 跳躍運動
跳上跳下——腰掛を用ひて各自になさしむ。教師を中心として圓形に集合する。
- 12、 遊戯
「バスケットボール」——紅白二組に分ち、時間内盛になさしむ。
- 13、 平均運動

手其儘舉踵屈膝——緩かに各自になさしむ。

14、呼吸運動

各自隨意になさしむ。

備考

- 1、寒き時は個人指導は期を得て居らぬ。只専心に練習すべきで時々注意をなす位でなければならぬ。
- 2、始めに遊戯を課したのは、前時まで個人的に活動して居たのを共同的にし、團隊的にするのと、前時までには多少苦しみつゝありしを樂しみに導く爲めである。かゝる場合は斯くする事とす。
- 3、遊戯は休む兒童なく、全力を盡して全兒の活動する如きものを冬季には課すものとす。

六、尋常第六學年

□教授案例一

兒童 男女六十名。

日時 六月中旬、第五校時。

天候 曇、蒸暑し。

前後時の關係 (1)前時——晝食後一時間の休憩。

(2)後時——男退校、女裁縫。

教授の主目的 各教材殊に新教材の練習をなし、前學年に比して更に性別に取扱ふ。

教順

1、教練

男子の後方六步離れて女子集合、共に二列横隊。
行進及び行進間に於ける諸動作

2、 上肢の運動

臂側上舉側下——隊形四列距離三步兩手間隔。

3、 上下肢結合

臂前上舉足前出舉踵——隊形同前。各自四回。

4、 頭の運動

手胸頭前後屈左右屈——隊形同前。各自になさしむ。

5、 軀側の運動

屈臂開脚體左右轉——隊形同前。左右二回宛正しくなさしむ。

6、 背の運動

屈臂開脚體前倒——隊形同前。各自三回。

7、 胸の運動

肋木支持上體後屈——開列隊形より二列横隊に復し、規律正しく敏捷に駈歩を以つて肋木の所定の位置に集合。

後屈姿勢と呼吸とに注意をしつつ、各自に三回づつなさしめ、終つたならば開脚體前屈の調節運動をなさしむ。

8、 懸重運動

兩側懸垂(男)——一組をしてなさしめ他の一組は幫助せしむ。殊に互に懸垂姿勢及び降るる場合に注意し合ふ。各自三回宛。

肋木對向懸垂(女)——男子と同じく互に幫助し、批評し乍ら各三回宛なさしむ。

9、 平均運動

平均臺上屈膝行進——注意すべき事項は、平均臺上徐步行進と大

體は同一であるが、特に此の運動に於ては、

イ、後なる脚を前に進むるには、平均臺に近く下方に弧形を畫く如うにし、外側に遠廻りせぬやう。

ロ、屈膝せる脚の膝關節を、軟かに働かしむるやう。

ハ、前進は屈膝せる膝關節と、足首關節と、後方前進せしむべき股關節とに依つてなし、他は常に正しき姿勢をなすやう。

10、脊の運動

足及太腿支持臺上伏臥——腰掛の位置及び伏臥の姿勢に注意する。各自をして二回練習せしめ、一回は一齊になす。

11、腹の運動

腰掛上臂立伏臥——男子は臂の屈伸をなさしむ。各自三回。

12、軀側の運動

屈臂腰掛體左右轉——前運動に續いて各自左右二回づつ。

外側の手上伸内側の手軽く胸内側脚支持體及上體內側屈——肋木に依つてなし。内屈する場合は、伸び上る氣持にて充分吸氣し、内屈し乍ら呼氣する。但し肩を張らざるやう。

13、跳躍運動

跳躍的駈歩足踏——各自になさしむ。

バック垂直跳(男)——各自練習の後、連續的になさしむ。

跳上跳下(女)——各自練習の後、連續的になさしむ。

14、遊戯

竿頭旗奪(男)——男子を紅白に分ちて、各防禦組と攻撃組とを分ち十間程離れたる二本の竿頭に紅白二本の旗を立て、白軍は紅旗を、紅軍は白旗を奪はんと互に競ふ。

バスケットボール(女)——規則を確に守らしむ。

15、 下肢の運動

手腰屈膝舉股——隊形自由開列。

16、 軀側の運動

手頭開脚體左右屈——隊形同前。

17、 平均呼吸運動

舉踵屈膝臂側舉——隊形同前。緩かになさしむ。

右終つて靜かに集合し、解散。

備考

1、 新教材を授ける場合には、他の教材は簡單に取扱つて新教材を充分に扱ひたい。すなはち第一印象をして意義あらしめねばならぬ。

2、 新教材を充分に取扱ふにも、單に一時限で一教材を完全に授け得らるるものではない。故に先づ階段的に一步一步を充分に取扱ふつもりでなければならぬ。

3、 高學年になると運動器具を多く使用するために、時間を空費する場合が多い。又種々の器具を使用するために、複雑となり不規律となる事が多い。之れは何れも注意せねばならぬ。

4、 運動の如きも一々示範し、號令を掛けてなすが如きは、倦怠せしめ時間の空費となる故、各自自律的になし得る部分は自律的になさしめる。又號令の如きも笛の音の合圖位にて次から次になさしめるやうすべきである。しかし各自の運動は充分沈着になさしめねばならぬ。

5、 一運動から次の運動に移る場合の如きは、其の場でなす時は別

として、場所を變更する時は最も敏捷にせねばならぬ。即ち多くの場合は駈歩にて次の運動をなすべき位置に集合する。

□教授案例二

兒童 男女六十名。

日時 七月下旬、第五校時(三十分短縮)

天候 晴、風あれど暑し。

前後時の關係 (1)前時——綴方

(2)後時——退校

教授の主目的 精神的の疲労と、暑氣より受くる倦怠とを除き、精神上に快と、肉體上矯正をなすにある。

教順

1、集合

男女輕装して木蔭又は屋內體操場に集合する。

2、教練

簡單なる諸教練——元氣よく愉快に指導す繁雜に渡り小部分に拘泥して全體の氣分を損せざる事に注意。

3、下肢の運動

手腰屈膝足側出——隊形自由開列。一齊になさしむ。

4、上肢の運動

臂左右上下伸——同前。

5、頭の運動

手胸頭左右轉及屈——隊形同前一齊になさしむ。

6、胸の運動

臂側舉開脚上體後屈——同前。

- 7、遊戯
場所取——男女三組宛に分ちてなす。
- 8、平均運動
手胸屈膝舉股——緩かに各自になさしむ。
- 9、脊の運動
屈臂開脚體前倒——正しく一齊に三回。
- 10、腹の運動
腰掛上臂立伏臥——男は臂の屈伸を加ふ。
- 11、軀側の運動
屈臂足前出體右左轉——足の交代は一舉動にてなす。二回宛。
手頭開脚體左右屈——手頭開脚を一舉動にてなさしむ。二回宛。
- 12、教練

行進間の諸動作——簡單なるものをなし、屋外の日光の當る所に、てなさしむ。但し時間は短くすべし。

13、遊戯

「ホップステップブアンドジャンプ」——男子、
走巾跳——女子、

14、平均運動

足尖行進——日蔭にてなさしむ。

15、呼吸運動

臂側舉——各自由になさしむ。

備考

- 1、運動後の休憩時を充分取り得るやうせねばならぬ。又教師は充分憩はせるやう方法を講せねばならぬ。それには運動後に於

- ける、衛生的種々の仕事をなさしむが最も適當してゐる。
- 2、酷暑酷寒の候には各自になすよりも、一齊に呼稱をなし得べきは呼稱を以つてなす方がよい。
- 3、一々叮嚀な個人的指導は適して居らぬ。
- 4、日光に直射せしむる事は考へてなさねばならぬ。殊に教室から出て直ちに日光の下でなさしめる如きは慎まねばならぬ。

□教授案例三

兒童 女五十名。

日時 十月下旬、第五校時。

天候 晴

前後時の關係 (1)前時——書方

(2)後時——裁縫

教授の主目的 各運動に依る身體修練をなさしめ、ダンスを授けんとするが目的である。

教順

1、教練

行進と開列——開列は敏速に距離三步兩手間隔になさしめる。

2、下肢の運動

手腰舉踵半屈膝——屈膝より舉踵の姿勢になる時ばかりでなく舉踵より屈膝になる時に於ても、敏活になし、以つて膝關節の修練を充分になす。

3、上肢の運動

臂左右上下伸——隊形同前、下肢の運動、足側出踵上下を加ふるも可なり。

4、頭の運動

手胸頭前後左右屈——隊形同前、各方二回宛各自になさしむ。

5、胸の運動

肋木支持上體後屈——各自になさしむ。

6、軀側の運動

手頭腰掛上體側屈——此の運動は胸の運動でもある。各自二回宛。臂側舉腰掛體左右轉——各自二回宛。

片手上伸片脚肋木支持體內側屈——各自三回宛。

7、懸垂運動

兩側懸垂——各自自律的に二回宛なさしむ。

8、平均運動

平均臺上屈膝行進——平均運動は男子に比して女子の方が勝つ

てゐる。殊に平均臺を用ゐてなす場合は最も得意が表はれる。

故に此の運動は女子に於て充分修練する事が出来る。

9、脊の運動

足及大腿支持臺上伏臥——自律的に二回宛なさしむ。

10、腹の運動

腰掛屈臂足肋木支持體後倒——體の倒起は股關節に依つてなさしむべく、呼吸は自由なるを可とす。各自自律的に三回づつなさしむ。屈臂姿勢の困難なる者は手胸姿勢を取らしむ。

11、軀側の運動

手胸片脚肋木支持體外側屈——各自に三回宛なさしむ。

12、跳躍運動

臂前振其場跳躍——各自三回宛。

跳上跳下——跳びたる者が幫助となり數回なさしむ。

13、遊戯

「ダンス」——初めは通常歩。音樂に合せ、四拍子、三拍子、二拍子等の歩法練習をなし、次に之れに手の動作を合せて行ひ、豫備的練習は終る。教授すべきダンスを音樂なしに口拍子にて練習する。出來上る時は

ダンスの一部分宛授け、一部分宛音樂に合せ、後に全體として完成せしむ。

14、行進

唱歌行進——四列縦隊。

15、平均運動

手胸徐步行進——唱歌行進終らば直ちに其の隊形にて徐步行進

をなし、緩かに一齊に揃へしむ。

16、呼吸運動

掌外反頭後屈——徐步行進が終らば其の位置に於て、各自に數回なさしむ。

備考

- 1、女子は男子に比して靜肅ではあるが、元氣、活潑に缺け易いから注意せねばならぬ。
- 2、教材の上からは男女に依つて未だ大差はないが、其の取扱上即ち教授上からは大に考へねばならぬ。呼唱、號令、個人指導等に於ても皆男子と一樣には出來難い。
- 3、個人的の指導は如何なる場合も考へてゐなければならぬ。殊に各兒童が自律的に運動してゐる場合は、各人個性を最もよく表

はしてゐるから、敏活に個人々々の指導をせねばならぬ。

4、新教材でない練習教材は成るべく児童各自に自律的になさしめたい。そして眞に自己活動をなさしめねばならぬ。

5、ダンスを授ける場合は、常に基本的歩法練習と手の練習とをなさしめてから目的教材の練習に入らしめるがよい。

6、唱歌行進は整理運動としては、効果が大きい。即ち呼吸と循環とを調節する事が大きい。

7、女子の平均運動は多少程度の高い教材もなすことが出来る。

□教授案例四

児童 男六十名。

日時 一月下旬、第五校時。

天候 晴、風なければども寒氣強し。

前後時の關係

(1)前時——圖畫

(2)後時——退校

教授の主目的 総合的運動を主とし、自己活動を重んじて元氣に運動せしむるにある。

教順

1、遊戯

「手継ぎ」場所取——注意を一方に集注することに依つて、寒氣を忘れしめ、運動氣分とならしめる。

2、跳躍運動

駈歩足踏——跳上りの的になさしめる。隊形自由。

3、上肢の運動

臂左右上下伸——隊形同前、呼唱活潑になさしむ。

- 4、頭の運動
- 5、手胸頭左右轉屈——隊形同前、各自各方各二回宛。
- 6、胸の運動
- 7、手胸開脚上體後屈、手頭開脚上體側屈——隊形同前、各自に各一回
- 8、懸垂運動
- 9、臂立懸垂——平行棒より六步程離れて、走り行きて臂立懸垂をなす。人數多き時は其の交代を敏捷にする。
- 10、平均運動
- 11、手胸屈膝舉股——隊形自由にして各自緩かになさしむ。
- 12、跳躍運動
- 13、垂直跳(バック)——連続的になさしめる。
- 14、遊戯

- 15、フットボール——時間の許す範圍内に於て充分なさしむ。
- 16、軀側の運動
- 17、屈臂開脚上體左右轉屈——隊形自由開列。
- 18、平均運動
- 19、手腰舉踵屈膝——緩かになさしむ。隊形同前。
- 20、呼吸運動
- 21、臂前上舉側下——各自になさしむ。

備考

- 1、局部的教材よりも総合的教材の方が自己活動は大であり、随つて寒氣など強き場合は自己活動を充分なさしめるために、総合的教材を多く課すべきである。
- 2、教材の種類が多き事よりも、総合的教材の面白きものに就いて

充分味ひ得るまで練習せしめる方がよい。
 3、寒さの強き時は如何に走つても、暖は取ることが出来ぬ。それよりも精神を一點に集める得る教材を課する事に依つて、暖は容易に取る事が出来るものである。

七、高等第一二學年

□教授案例一

児童 男四十名。

日時 五月中旬、第五校時。

天候 晴。

前後時の關係 (1)前時——書方
 (2)後時——退校

教授の主目的 體操を主として練習せしむるにあり。

教順

1、教練

速歩行進——規律的になさしむ。

1、上肢の運動

臂左右上前下伸——隊形自由開列。各自になさしむ。

3、頭の運動

手胸頭前後左右屈左右轉——隊形自由開列、各方二回宛。

4、下肢の運動

舉踵半屈膝——隊形同前、各自になさしむ。三回

5、胸の運動

手胸上體後屈——同前。

- 6、上下肢結合
脚側出舉踵臂上下伸——同前。
- 7、胸の運動
肋木支持閉足上體後屈舉踵——一齊になさしむ。調節運動もなす。
- 8、軀側の運動
手頭屈木上跨乗體左右轉——各自になさしむ。三回。
- 9、懸垂運動
兩側懸垂開脚屈臂——同前。
- 10、平均運動
平均臺上膝立行進——同前。
- 11、背の運動

- 12、腹の運動
腰掛上伏臥足及太腿支持手胸體前倒——同前。
- 13、軀側の運動
腰掛足支持手胸體後倒——同前。
- 14、懸垂運動
肋木伸臂懸垂屈膝舉股——同前。
- 15、教練
行進間の諸動作——最も嚴格に行ふ。敏捷にして活氣溢るばかりならしむ。
- 16、跳躍運動
水平跳(縦一節)——規律正しく數回行はしむ。

17、遊戯

「ヴァレーボール」——時間のある範圍に於て成るべく長く行ふ。

18、下肢の運動

手胸足左右出——一齊に三回なさしむ。

19、平均運動

手腰舉踵屈膝——緩かに各自に行はしむ。

20、呼吸運動

掌外反頭後屈——自由になさしむ。

備考

- 1、運動は各自になさしむるも、個人指導は常になさざるべからず
- 2、自由に運動をなさしむる場合は、運動と運動との境を明瞭に示し、不規律にならざるやうすべし。例へば胸の運動をなし居る者

も、脊の運動をなし居る者もあるときは不規律となる。

3、教練は最も嚴格になさざるべからず。

4、個人指導をなす場合は、成る可く研究的態度の起るやうになさざるべからず。

□教授案例二

兒童 女四十名。

日時 十月下旬、第五校時。

天候 晴

前後時の係關 (1)前時——圖畫

(2)後時——退校

教授の主目的 體操を主として練習し、女性的に取扱ふにあり。

教順

1、教練

縱隊行進開列——號令を注意する、男子の號令が雄大剛健であれば、女兒に對する號令は溫和明快なるを可とする。

2、下肢の運動

手腰舉踵半屈膝——隊形前開列。一齊になさしむ。

3、頭の運動

手胸頭前後左右屈——同前。

4、上肢の運動

臂左右前下伸——同前。

5、上下肢結合

脚側出舉踵上下伸——同前。

6、胸の運動

肋木支持上體後屈舉踵——各自になさしめ、調節運動を行ふ。

7、軀側の運動

手胸開肘開脚體左右屈——隊形自由開列、各自になさしむ。

8、懸垂運動

兩側懸垂——一齊になす。

9、遊戲

「場所取り」——數回勝負を行ふ。

10、平均運動

手胸臺上屈膝舉肢行進——各自になさしむ。

11、脊の運動

屈臂片脚支持屈膝體前倒——片脚支持は肋木にてなさしめ、一齊に行ふ。

12、腹の運動

屈臂腰掛支持後倒——各自に三回宛なさしむ。

13、軀側の運動

半懸垂側臥——一齊になさしむ。

14、跳躍運動

跳上跳下——跳越臺の數だけの人數が一齊に規則正しくなさしむ。

15、遊戯

「キャブテンボール」——小學校體操教科書中掲載のもの。

「ダンス歩法練習」——各拍子の練習をなす。

16、平均運動

手腰舉脚左右轉——隊形自由列、各自三回宛なさしむ。

17、呼吸運動

臂前上舉側下——各自になさしむ。

備考

- 1、女子は自律的になると不活潑となる故に注意せねばならぬ。
- 2、次々の運動への移方は敏捷になすやう常に注意せねばならぬ。
- 3、新教材を授くる場合、高學年に於ては男女を通じて、最も正しき示範を必要とする。而して後は各自に研究的になさしめ個人々々に指導することを忘れてはならぬ。
- 4、ダンスの練習としては、常に基本になる歩法練習をなすべきである。

第六章 其他教授上の諸問題

一、設備の改善

(二) 現在に於ける設備の缺陷

(イ) 現在設備は形式的である

常に體育の事のみにあらず、教育全體としても、我國の教育は形式的である。校舎を建て校庭を造るも、多くは法令の示す所に依つて以て事充分なりと考へて居る。教室の開窓の方法までも法規の示す所となり、之れに依る事を以つて最も理想的なりとの有様にある。即ち法規の形式にして具備するに於ては設備は充分なりと一般に心得てゐる之れ大なる誤りである。目下何等充實せる設備はない。

昨今漸く體育が兒童教育上重視されるに至りしに拘はらず、設備が形式的で不充分である事は最も甚しい。先づ實際に就いて一、二を例として考ふるならば、或學校に於ては兒童遊戲の爲めに、五百の兒童の爲めに、何箇のフットボールを買ふであらうか、十五箇位買ふであらうか、或は十箇位で間に合せるであらうか、恐らく一校門のたために數百金を投ずる學校に於てであるから、實際直接教授用具に事缺く事はなさそうなものである。が事實に於ては只の一箇乃至は二箇のフットボールが關の山で、最近三箇備へてゐる事を他に向つて大いに誇りとしてゐる。それならば他に遊び道具があるかと觀るに、ブランコも鐵棒も備へてゐる。だが之れも形式的にブランコが一つと、鐵棒が大・小二間だけ位である。體操用具に於ても申譯的に一通りは備つてゐる。しかし何れも

活用の出來ぬ形式的設備ばかりである。

以上の如く現在の設備は實際的でなく、只形式のみである。

(四) 設備が偏してゐる

體育が盛なりとの學校を觀た時の感じを、左に列記するならば、

- 1、校庭が肋木並行水平棒・鐵棒に圍まれて、宛然牢獄の如き感じがする。
- 2、校庭に一本の芥もないが、又芝生もなく沙漠の如く感じられる。
- 3、體操器具に對して遊戯の器具は誠に貧弱である。
- 4、運動用具に比して、衛生的洗面所・足洗場等の設備は殆んど缺けてゐる。
- 5、屋内體操場の設備が、屋外のそれに比して殆んど考へられて

居らぬ。のみならず屋内體操場のない學校が多い。

6、各教室に於てあまり體育的設備は考へて居らぬ。

以上は設備が一方に偏して居る一例に過ぎぬが、體育の盛なりと云はるる學校の多くは、體育的運動殊に體操が上手に行はれる學校を指し、それ以外の方面が如何であらうとも、現在の多くの人々はそれには注意しては居らぬ。即ち體育的設備は著しく偏してゐる。

(三) 改善すべき設備

(イ) 設備の充實

體育運動の設備が、形式的に各種に渡らんよりは一種類でもよいから、充實して充分運動に差支へのないやうにせねばならぬ。勿論各種方面に渡つて理想的に充實せしむる事が出来るならば、そ

れは一番結構な事である。現在の状態に於ては第一に形式的な標本的設備を排して、内容の充實せる理想的實際的設備を必要とするのである。

(四) 設備の改善すべき方面

1. 運動場

校庭は運動場として使用されるものであるが、此の運動場には是非とも樹木を必要とし芝生を必要とする。松林あり櫻樹あり柳も交り、芝生には草花咲亂るありて、初めて自然と親しみ樂しみ遊ぶ事が出来るのである。更に池あり船あり山あり廣場ありて、夏は水泳の樂しみあり、冬はスケートの快あらば體育的目的は不知不識して達し得る。

しかるに現在の運動場は、之等設備方面は全く缺けてゐる。否

寧ろ之等の設備は何も考へられては居らぬ。

校外の運動場に於ては以上の缺陷があるが、屋内體操場に於ても亦之れに類する缺陷を見るのである。

即ち運動場として改善すべき點は甚だ多いのである。今後は此の方面の改善をなし、よりよき環境に於て體育の仕事もなすべきである。

2. 運動用具

運動用具として現在比較的一般に完備して居るものは體操用具であると思はれる。肋木・並行水平棒は小學校になくはならぬものとし、地方に依つては何を措いても之を備へねばならぬとの考へから、一樣に拵へられた。顧みて他の運動用具を觀るに殆んど捨ててある有様である。肋木・並行水平棒が巍然た

るに對して、僅かに朽ちたる固定圓木と一二箇のフットボールがある位のものである。

長き之臺も、多くのブランコも、テニスコートもラケットも、ベース用具も、總ては體操用具と同様必要なものであり、或は以上に必要な運動用具である。

其の他子供の遊び用具としての各用具は、今後に於て是非とも設備すべきものである。

3、衛生的設備

體育といふ事は直ちに運動と解され易く、主に體操とか遊戲とか教練の運動價值論のみをいふてゐる。即ち體育は運動を主として考られてゐる。夫れ故に體育運動は體育の全部の如くに考へ、體育運動にして充分行はれてゐるならば體育の事は了

れりとの傾向がある。

洗面所・足洗場・浴場・健康室(衛生室)・机・腰掛・採光窓・床面と兒童との關係・指導者の不斷の注意等が充分に備はり行はれねば、折角の體育運動も其の半ばも効を奏する事は出來得ぬ。

今後に於ては各設備と共に此の衛生的設備は考慮して行かねばならぬ。

4、理論教授の設備

體育知識を授くる事の大切であるといふ事は、次節に於て述べやうとするのであるが、理論的教授をなし知識を授くる爲めに、現在の状態は何等の設備はないと云ふても差支へはない。

標本・模型・圖表・實驗機械・寫真・繪畫等理論教授上必要なべき各設備を他の設備と相俟つて備へねばならぬ。視る事に依り聞

く事に依り、經驗する事に依りて、兒童の體育的知識を向上せしむる設備は是非とも必要な事である。

二、體育知識の教授

(一) 體育的知識の必要

現今體育が一般に普及して來たといふ事は、體育運動が盛になつて來たことで、體育的知識に至つては何等の進歩はないかの感がある。反つて體育を單に娛樂物化する傾向は著しく、體育を觀る物とし觀せる物とする方面にのみ苦心してゐる。元より體育運動は吾人の樂しみの一つであるが、體育の眞の目的は只樂しむばかりではない。のみならず體育的知識の不足は非衛生的となり、人格を劣等ならしめ、體育は人を情落せしむるものとなるのである。

殊に兒童體育に於て體育的基礎知識を授けて置く事は、成長の後に於て體育的生活をなさしむる源となり、随つて人類全體の體育は向上され進歩される。兒童體育に於て體育的知識を授くるの必要な事は、兒童教育に於て他の知識教科の必要なると同様に必要なものである。

(二) 體育的知識教授の時と事項

(イ) 體育的知識教授の時

- 1、特別に時間を設くる場合
知識教授をするために、特に時間を設けて理論的教授をすることは目下甚だ必要であると思ふ。一週に一時間か二週乃至三週に一時間でも特に教授する必要がある。

2、體操科時間内に於て取扱ふ場合

體操科教授に當つて、各部の運動を解剖的生理的方面から説明して運動の要領を得せしめ、併せて體操科教材を理解せしむる事は、最も實際と結びつかしむる上にも、効果は甚だ大なりと思ふ。唯々缺點とする所は主として體操に就いてのみであることと、生理解剖學以外にまでは及ばざる事と、時間が短い事とで、系統的に授ける事は出來難いのである。

3、其他の場合

教場内に於ける、讀方理科等の教科に於て時々表はれる體育的事項に就いては、其の時々に於て適當に具體的に教授し、衛生展覽會等の時々遇發的體育的催しなどを利用して、不斷に注意し體育的知識の向上をはからねばならぬ。

(四)

體育知識の教授すべき事項

1、人體の解剖一般

吾々は人體の組織に就いて一般を知つて置く必要がある。それには人體に就いて最も疑問を持つ兒童期に於て、解剖の一般を知らしむが最も當を得てゐると思ふ。又普通教育六ヶ年中に人體に就いて組織の一般を知らしむる事も大切な事である。何れにしても人體解剖一般は授けねばならぬ知識である。

2、人體の生理一般

人體解剖の一般を知らしむると共に、呼吸循環消化排泄及び運動の身體に及ぼす影響神經系統等に就いて生理學上の一般知識を知らしめる必要がある。

3、衛生學の一般

解剖學・生理學の一般知識を授けると共に、衛生思想を養成しな

くてはならぬ。それには日常の起居・飯食・住居・衣服・疾病・日光及び水と人生との關係・溫度と人生との關係・他生物と人生との關係等につきて、衛生學上より成るべく具體的に知らしめる事は亦必要な事である。

吾々の體育的生活をなす上に就いて、最も缺陷であると反省することの出来るのは、此の衛生思想の缺乏して居る事であると思ふから、出来るだけ事實に就いて具體的に知らしめる事は、體て體育的生活をなす基を築くものである。

生理・解剖上の知識を授けても、衛生知識を授けねば何等の効果もないと思ふ。尙ほ衛生的知識は授けても、此の知識を實生活上に表はす事が出来ないならば、利する所は何もないのである。即ち衛生學は實生活と結びつけて授けねばならぬ。

4. 各運動方法

兒童の行ひ得る運動は成可く其方法を授けねばならぬ。即ち各運動の方法規則を知つて居るために、運動に興味を持ち進んで行ふに至るものであるからである。事實吾々がテニスを觀て規則を少しも知らなかつたならば、テニスに對する興味は半ば以上失はれる事であらう。故に兒童にテニス・ベースボール・インドワベースボール・ヴァレーボール・バスケットボール・立巾跳・走巾跳・立高跳・走高跳・棒高跳・砲丸抛・圓板抛・槍抛等を實際と結びて一般方法を知識として知らしむべきである。

運動慾の旺盛なる兒童には運動方法(規則)を學ぶ事は何の苦痛もない。殊に實際と結びついて教育するならば、直ちに覺える事であり、そして生涯忘れ得ざるものである。

三、體操科に於ける成績考査

(二) 技術に依る成績考査

體操科の成績を考査するに、技術の優劣に依つてするものをいふ。多くの場合に此の方法が行はれてゐる事情であるが、技術に依つて成績を考査する時には、次の如く缺點があつて至當の方法であるとはいへぬ。

(イ) 體操科を技術主上のものとする

單に技の巧拙を以て他の方面を顧みずなす時は、技術の末に走り易くして、技術の巧みならん事のみになり、技術を以て至上となし體操科の目的を失するに至るものである。

(ロ) 技術に依るときは多くの場合先天的に成績は決定される

あ體操科の技術の如きは、努力に依つても向上するものではあるが、先天的に定まるものである。殊に兒童體育にて行はるる體操科の技術の如きは、多くの場合に於て先天的性質を持つてゐる如何に努力すればとて上手に出来ない子供もあり、少しも努力しなく教師よりも巧みになす子供もある。夫れ故に技術に依つて成績を考査するときは、成績は先天的に決定されて、兒童の精神方面の活動如何は少しも考へない事となり、成績考査法として不當のものである。

(三) 體格に依る成績考査

身體の發育の可良體格の甲なるものに、成績甲を附けしからざるものは體格に依つて成績を定める體格に依る成績考査法である。之れは如何に不當であるかは明かな事であるが、時としてなきにしも

らざる方法であるから、茲に一言して今後に於て相互の戒としたい。

(三) 體操科の好嫌に依つてする成績考査

體操科の嫌ひな子供には不良な成績を與へ、好きな子供には良成績を與へるのであるが、斯くして成績を定める場合もあると考へられる。しかし之れは體操をば單に娛樂視してゐる腕白者には都合よかるべきも、一般に之れを以て成績を採る事は不合理な事である。好きだとか嫌ひだとかに依つて成績を査定することは、餘程不都合の如くにも思はれるが、又一面から考へて見ると餘程間違ひのない考査法でもあると思はれる。

(四) 合理的な成績考査

體操科の成績考査をする事の可否は別として、とにかく成績考査を行ふとするならば、前三項の如き一方に偏した方法ではならない。

しからば合理的な成績考査とは如何なる方法であるかといふに、次の各方面から査定されたものでなければならぬ。

- (イ) 自覺の程度を考慮する。
- (ロ) 技術の程度を考慮する。
- (ハ) 衛生的生活程度を考慮する。
- (ニ) 比較的でなく個人的に考慮する。

以上四方面から考へて、其の査定に當つては慎重であらねばならぬ。若しも如何に技術に於て優るとも、自己の意志を以て思想感情を左右し得ず、體操の使命目的を自覺せざる者であれば、其の成績は半ば減せらるべきものである。換言するならば、自己の意志で運動するにあらずして只機械的に運動するのであるならば、技術が如何に優るとも價値は半減するといふのである。

又體操、運動の時のみ自覺的にして技術に優るとも、其の他の生活にして非體育的であるならば、體育といふ廣い立場から考へて喜ばしい事ではない。體操科の成績とは申せ、單に體操科時間内のみを考へずに、廣く體育といふ立場から考へたいと思ふ。否廣く學校に於ける兒童體育といふ立場から考へねばならぬものである。更に比較的でなくして、個人的に考へたい。事情と境遇とを異にして居る兒童を一樣に考へて評價して行く事は不合理な事である。

四、教材の偏重

茲に云ふ教材の偏重とは、或一教材を重視し他を輕視するとか、一時的流行教材を偏重するとかの事をいふのである。今左に偏重されてゐる教材に就いて述べて見たい。

(一) 體操の偏重

體操科と言ひさへすれば、直ちに體操の事であると信じて、何の不都合もないまでに重要視されてゐる。甚しきは他の一切の教材を排して、身體修練の運動は體操でなければならぬとまで過信して居るものがある。體操に就いてそれを職業として居る者は別として、總ての人に對して如斯事は無理な事でもあるし、又甚しく誤つてゐる事でもある。

現今は體操をばあまりに重要視し過ぎて居る傾向があり、既に其の反動として輕視し過ぎて居る向もある。

これは我國に於て體操各教材論が長足の進歩をなし、教材に對する理論的研究が一般に普及するに至つた爲めに、從來身體運動に對して何等の識見のなかつた相互が、一樣に體操をば偏重するに至つた

ので、敢へて怪しむに足らぬのである。しかして身體運動熱の盛になつて來ると共に、頻りと體操に就いて論議され、身體運動に對する新しい方面の研究が盛んになつて來て、體操以外の他の運動を斯界に紹介するやうになつたのも亦當然の事であるけれども、一般から申すならば今日尙體操を偏重して居る者が非常に多い事である。これは考へねばならぬ事であると思ふ。

(三) 競技の偏重

體育熱の盛なると共に、國際的競技が亦盛になつて來て、所謂競技運動なるものは如何なる山間の片田舎の青年間にも行はるるに至つた。これと同時に小學校の兒童體育にも競技運動が盛に行はるやうになつたのであるが、地方に依つては所謂遊戯競技なる教材は兒童體育運動として最も適せるものとし、他を不適當のものとしてゐる。

る。そして遊戯競技ばかり行つて體育の目的を達しやうとして努めてゐる。

しかし以上の如きは兒童體育の如何なるものであるかを知らぬものであつて、一時的流行を追ふものであり、又體操に對する反動的になされるものである。其の兒童體育に對する眞面目を缺く事は甚大である。

勿論競技運動には獨特の長所はあるし、旁々體育運動方法の知識を授けねばならぬ必要から、之れを採つて以て體育運動教材とするは誠に好しい事である。要するに偏重を戒めるものである。

(三) 教練の偏重

目下教練に於ては偏重にあらずして偏輕の有様にある。一時は偏重された教練も時代の變遷と共に、現在では只々其の形のみ残ると

いふ有様にある。しかし之れは又最近軍備縮少等から、青年及び一般學校教育に於て軍事的訓練の必要を高唱する者漸次に多くなると共に、次第に重視せらるゝに至るであらう。或は偏重せられるにはあらずやと疑はれる程である。

何れにしても現在の教練が、教練の目的を達して居らぬ事は事實であるから、之れを改善する所がなければならぬ。

(四) ダンスの偏重

近代ダンスは一般に隆盛を極めてゐて、東西上下共にダンスが流行してゐる。それに伴つて小學校に於ける體育的ダンスも非常に價値あるものと認められ、小學校に於ける體育界に於ては、盛んにダンスを體育教材として採用してゐる。しかも體育運動として殊に女子の體育運動としては、ダンスに勝るものはないとして、地方に依つ

ては、既に随分偏重され、或は其の他の地方に於ても偏重される傾向がある。

元來ダンスは藝術的方面のものであつて、體育運動として發達し來つたものではない。體育ダンスとしての體育的の價値は、そう過大視する事は出來ない。藝術教育としての價値の方が體育としての價値よりも勝りもし、重要視すべきものでもある。

學校教育全體として考ふならば、ダンスは價値の多い教科であると思ふ。けれども之れを以つて直ちに體育的に最も價値あるものとするは誤りも甚しきものである。只體育教材として採用する事は不都合はないが、價値を過信する事を戒めて、偏重しないやうにした

五、服裝の問題

(五) 特別な服装の必要

體操を行ふに當つて、適當な服装の必要な事は云ふまでもない事である。即ち

- (イ) 自己の能率を十分發揮するため
- (ロ) 自由に活動し得るため
- (ハ) 要領を得せしむるため
- (ニ) 體育的生活をなさしめるため

等から考へて見て、當然改善せられた特別な服装を必要とするものである。而して日常生活の服装とは密接な關係があるけれども、茲には體操の時にのみ用ひられる特別な服装について考へて見るの

である。

(二) 體操服

體操服として必要な條件を述ぶるならば

- 1、衛生的であるもの
- 2、各部の運動の自由なもの
- 3、美的なもの
- 4、成る可く日常服装と連絡あるもの
- 5、着脱の簡單なるもの
- 6、經濟的なるもの

右條件を具備するものを理想とせねばならぬ。時には運動を輕快になすために、或は技術のみ上達せんため、身體の一部を緊縛するが如き愚をなすものがある。之等は兒童體育上から絶對的に排斥す

べき事である。

尙服装は右條件を具備するならば、各形式等は自由でもよい筈であるが、共同的訓練をなすためにも、監督を容易ならしむるためにも形式も一齊に揃ふる事を希望する。

運動帽及び履物

運動帽は次の條件から男女共に使用させる必要がある。

- 1、日光の直射を防ぎ、毛髪に塵のかからざるため
- 2、教授上監督容易にして、規律を保つに便利なるため
- 3、共同的活動をなさしめ、團體的訓練をなすに便利なるため
- 4、女子は特に髪の亂れざるため

衛生的であり、美的であり、經濟的である事も、亦形式を一定すべき事も服と同じである。

履物に就いては、靴若しくは地下足袋を用ふる事が最も便利である。しかし運動に便利なために、非體育的なものは使用してはならぬ。次に教師の服装について一言したいのは、教師も兒童の服装に準じて教授上支障のない服装であらねばならぬ。

六、教授者の修養

(一) 兒童體育に對する正しき見識

教育者の總ては美しき人格者でなければならず、熱誠慈愛親切の人でなければならぬ。殊に體育指導をなすものは、健全なる身體と正しき姿勢の所有者でなければならぬ。けれども兒童體育に従事する者に向つて、第一に希望する事項は、兒童體育に對して正しき見識を有する事である。

現在初等教育に於て體育は著しい進歩をしたが、それは兒童體育の一方面一部分に過ぎぬ觀がある。眞面目なる兒童體育の進歩であるとは思はれない。其の第一因は兒童體育に對する正しき見識を有する人がないためではあるまいか、少くも兒童體育の權威者を聞かぬ。

兒童體育の事を、只體操の専門教師に一任する事の如何に愚策であるかを思はねばならぬ。専門家は多くは専門に生くる者であつて特殊なる兒童體育の見識は乏しい。殊に専門家は各専門的型があつて、兒童教育には不適當である。

兒童體育に正しき見識を有するためには、

- 1、 兒童をよく知る者でなければならぬ。
- 2、 體育學に通じて居る者でなければならぬ。

此二箇條は其一を缺くも、正しく兒童體育に對する見識を持つ事は出来ないのである。只今では此の二箇條を兼備して居る人が、甚少いと思はれる。随つて兒童體育に對する正しき見識を有する人は少い。

吾人は不斷に努力して、兒童體育に對する正しい見識を作る事に努め、そして眞面目に兒童體育の事を行はねばならぬ。

(三) 體育的知識

世には體操學に通じた者もあり、衛生學者もある。體育全般の知識に通じて居る者は之れに反して甚少いと思ふ。

體育全般の知識とは、體育に必要な全般の知識で、生理・衛生・解剖・心理・生物・遺傳・物理・各運動法等の外に尙舉げ来れば頗る廣汎なる知識である。其の僅かばかりの一部分の知識に依つて、體育全般の事を

云々する事は、甚暴なるものといはねばならぬ。
吾人の修養は只々體操學を學ぶのみに止まらずして、進んで體育全般の知識を得る事に努めねばならぬ。

彼の體操専門家が、非衛生的であつたり、技術のみ誇つて非體育的であつたり、又衛生家が、運動の方法一つをだに知らなかつたりする事は、屢見る所であるが、共に我等の排すべき事である。

(三) 技術と指導法

如何に兒童體育に對する見識があつても、體育的知識があつても、相等の技術及び指導法を心得て居らねば目的を達する事は出来ない。故に常に技術を鍊り、指導法の研究を怠つてはならない。

以上は兒童教育の任に當るもの、殊に體育の事に主として當る者の三大修養點である。そして不屈の實行力を養つて置かねばならぬ。

實際
理論
體操教授法要義 終

大正十三年三月廿一日印刷
大正十三年三月廿六日發行

定價 金壹圓

著者 松井和夫

發行者 大葉久吉

印刷者 東勇治



東京市日本橋區本銀町三丁目十四番地

東京市小石川區久堅町百八番地

印刷所 東京寶文館印刷所

發行所 關西專賣

東京市日本橋區本銀町三丁目
振替口座東京二八〇番
大阪市西區阿波堀通四丁目
振替口座大阪四三番

東京寶文館

株式會社 大阪寶文館

東京寶文館發行書目

山田孝雄著

國民精神振作に關する詔書義解

我が國威の宣揚と共に國民の意漸く驕り動もすれば輕佻浮華に流れ殊に歐洲大戰以後は危險なる外來思想潮の如く襲來して思想界に大動搖を來せるの際大正十二年九月一日の大震あり、於是乎同年十一月十日を以て大詔煥發切に國民精神の作興を促さる、聖意深遠感激の至に堪へず。本書は此の大詔を奉釋して宏遠なる聖旨を徹底的に宣傳せるもの、一般國民の寶典として諸學校の賞與品として絶好の讀物。

洋裝全一冊	定價八拾錢	送料金六錢
-------	-------	-------

山田孝雄著

國民道德原論

世に國民道德を説きたる書少からずと雖、未だ其真髓に觸れたるものあるなし。而も時勢は日一日に惡化して國礎動もすれば危からんとす。山田先生切に刻下の狀勢に感ずる所あり、更正の大正十三年を迎ふるに際し、筆硯を清めて本書を著さる。内容は三種の神器によりて表象せらるる至誠・愛・敬の三徳を基礎として謹嚴に痛快に國民道德の真髓を述べられたるもの、萬人必讀を要す。

洋裝全一冊	定價金一回	送料金八錢
-------	-------	-------

侯爵 大隈重信著 (文部省檢定濟)

訂改國民讀本

菊判和裝全一冊 定價八拾一錢 送料金八錢

帝國の經典と推獎せられたる本書は創刊以來數百版を重ね國民一般の机上に置かる。曩に文部省の檢定を経て中等學校の國語教科書として今や諸學校に採用せられ一般青年に愛讀せらるゝに至れり。幸に御採用を賜へ。

大隈家編輯局編纂

▲訂改國民讀本參考 和一裝定價八拾錢 全一冊送料金六錢

侯爵 大隈重信著

國民小讀本

菊判和裝全一冊 定價金六拾錢 送料金六錢

陸軍大將男爵 田中義一著

訂改壯丁讀本

菊判和裝全一冊 價金五拾錢 送料金六錢

帝國壯丁必讀の本書は創刊以來好評を博し一般壯丁に又壯丁夜學會に多大の採用を得て都鄙に周布せり。今回必要なる法令の改正に伴ひ、改訂して茲に第百版を發行す。是非一本の備付を請ふ。

寶文館編輯所編

▲壯丁讀本字解 和一裝定價金參拾錢 全一冊送料金四錢

田家秀樹著

▲壯丁讀本講話 和一裝定價金貳拾八錢 全一冊送料金四錢

文部省

檢定濟

國民小讀本は義務教育終了者が容易に解し得らるゝ様説述せられたるものにして國民讀本の階梯として必讀を要す。國民讀本と共に永く日本國民唯一の經典として尊敬せらるべきものなり。

東京寶文館發行書目

◎社會改造の哲學	米國アドラー著 藤井章譯	布裝一冊	送定料價 金三圓五拾錢
◎道德の原理	文學博士 吉田靜致著	布裝一冊	送定料價 金三圓八拾錢
◎社會學的研究	文學博士 高田保馬著	布裝一冊	送定料價 金三圓五拾錢
◎近世に於ける「我」の自覺史	文學博士 朝永三十郎著	布裝一冊	送定料價 金三圓五拾錢
◎倫理學概論	東京高師教授 萩原擴著	布裝一冊	送定料價 金四圓五拾錢
◎文化と教育上の諸問題	廣島高師教授 佐藤熊治郎著	布裝一冊	送定料價 金四圓五拾錢
◎國史教授の根本問題	廣島高師訓導 大久保馨著	布裝一冊	送定料價 金貳圓五拾錢
◎文學形態論	モオルトン著 芦田正喜譯	布裝一冊	送定料價 金貳圓五拾錢

東京寶文館發行書目

◎理論實驗 修身教授法要義	佐藤熊治郎監修 三浦喜雄著	洋裝一冊	送定料價 金八圓
◎體験改造 競爭遊技の新教材	廣島高師前訓導 大林惠美四郎著	布裝一冊	送定料價 金拾貳圓
◎演習 少女劇脚本集	芦田正喜 小笠原薰共著	布裝一冊	送定料價 金一圓五拾錢
◎スポーツマンの精神	兵庫縣體育主事 矢島鐘二著	布裝一冊	送定料價 金貳圓三拾錢
◎徹底的最新物理學練習書	今宮中學校教諭 石川正智著	布裝一冊	送定料價 金貳圓三拾錢
◎藝術上の兒童畫教授	廣島高師訓導 大竹拙三著	布裝一冊	送定料價 金拾貳圓
◎思想を背景とする西 洋史綱	山梨師範教諭 石野悌著	布裝一冊	送定料價 金三圓六拾錢
◎批判的教育學の問題	文學士 篠原助市著	布裝一冊	送定料價 金三圓五拾錢

東京寶文館發行書目

蘆洲池田四郎次郎著

故事熟語大辭典

菊判春革布裝極美裝幀函入全一冊 定價金 拾圓
六號三段組紙數二千二百頁 送料金貳拾四錢

特色五則

- (一) 語數 三萬五千條、語數最多の既刊故事辭典に比し約一萬條多し。
- (二) 解説 簡明にして正確なる解説は他書に比して誇るに足るべし。
- (三) 出典 出典は原文のまゝ之を掲げ且書名篇名章名をも明記せり。
- (四) 要目 意義と出典との外十一要目を掲ぐ蓋し既刊類書中比なし。
- (五) 索引 至便にして斬新なる索引三種を附し語句の檢索に便せり。

276

326

終

